

# 第1回 白子町男女共同参画推進審議会 議事録

## 【日時】

令和5年1月31日（火）14:00～15:00

## 【場所】

白子町役場2階 第2会議室

## 【出席者】

### ○委員

板倉豊委員、田邊淳子委員、齊藤正和委員、片岡一弥委員、小林美穂子委員、諸岡あけみ委員、  
荒井満恵委員、前畑典子委員、中村泰子委員

### ○事務局

大矢務企画財政課長、加藤孝行企画政策係長

### ○株式会社

営業：國吉広大 研究員：井澤和貴

## 【次第】

1. 開会
2. あいさつ
3. 委嘱状交付
4. 審議会の運営について
5. 会長及び副会長の選任について
6. 審議事項  
(1) 白子町男女共同参画推進計画について
7. その他
8. 閉会

## 【資料】

白子町男女共同参画推進計画（案）

## 【議事要旨】

### 1. 開会

加藤企画政策係長より開会の言葉。

### 2. あいさつ

石井町長よりあいさつの言葉。

### 3. 委嘱状交付

委員の委嘱状の交付が行われた。

### 4. 審議会の運営について

加藤企画政策係長より、白子町男女共同参画推進審議会の運営に関する説明が行われた。

(その後、各委員より自己紹介)

### 5. 会長及び副会長の選任について

事務局の一任という声があり、会長に板倉委員、副会長に中村委員が選任された。

### 6. 審議事項

#### (1) 白子町男女共同参画推進計画について

委員：男女共同参画推進計画について国から示され、その後県の方でも動きがあって、白子町でも進められてきたと思うが、白子町ではなぜ今のタイミングで計画の策定となったか。アンケートについても令和4年度に行ったと説明があったが、その前から少しずつ分かっていたこともあるのではないかと。また、計画書に記載されていることがすべて実現されたら良いことであると思うが、「やらなければならないこと」が多くあり、どのように実現する予定なのか。

事務局：この計画を策定する時期やタイミングについてであるが、資料 p. 3 にもあるように国や県の動きを踏まえたという背景がある。男女共同参画社会基本法は平成 11 年に公布・施行されたが、これより前に国連では女性の権利の保障に関する議論が行われている。

日本は男女の格差が大きい社会であり、法律の公布・施行は世界の潮流から見ても遅れていた。差別的なことが多く問題となっている中で、日本では平成 11 年に男女共同参画社会基本法が公布・施行された。

都道府県については、男女共同参画に関する計画は策定義務となっているが、市町村は努力義務となっており、施策を展開したうえで男女差を無くしていくということであった。

本町のみならず、千葉県内でもいくつかの町村が未策定であるが、このタイミングで本町が男女共同参画推進計画を策定することになった理由については、現在、来年度を初年度とする第5次総合計画後期基本計画（令和5年度～9年度）を策定している中で、男女共同参画推進計画も同じ計画期間であるが、これまで本町の計画策定は町職員が中心となっていたが、今回の計画策定では、計画策定の専門の業者が入り、最新の潮流や取組を本町でも取り入れたいということで、お願いすることにした。

その中で、男女共同参画推進計画は今後施策を展開するうえで必要であるとの考えがあり、さらに後期基本計画を策定する際のアンケート調査でも男女共同参画の概念自体が浸透されていないことや、男女共同参画が実現されていないと感じている人も多いことが分かった。

こうした意識の低さの問題もあり、このタイミングで計画を策定する運びとなった。

計画が実現できれば良いとの指摘もあった。p. 27 には「PDCA サイクル」の説明もあるが、今は「Plan」の部分である。この計画を作った後に実行 (Do) になる。そのうえで、中間評価を行う可能性もあるが、評価 (Check) をしたうえで、反省点については次の計画で改善 (Action) する。

p. 15 の表でも基本目標と主要施策が示されているが、今行っていることもある。反対に、行っ

ていないこともある。そういったことを踏まえ、今行っていることは充実させる。今行われていないことは、これから5年間で取り組んでいく。

白子町では出遅れていた部分もあったが、後期基本計画の策定に合わせ、男女の意識を高める計画を策定することとした。

委員：世界的にも「生理の困難」という問題があり、女性が貧しくて生理用品を買えない人も多いと聞いている。男女共同参画を考えるにあたって、生理用品を買えないということを白子町でも考えてほしい。基本的なことなので、取組の中にも入れてほしい。

事務局：今の指摘については、この後の展開の中で検討する。また、施策の展開に「防災」に関する記載があるが、生理用品の備蓄についても取組に含まれることとしている。

委員：学校でも、生理用品は保健室に用意されているとのことであるが、貰いに行くことに、ためらいがあることも考えられるため、白子町でもトイレで手に入るような取組を考えてほしい。千葉市や東金市でも、このような取組が行われていると聞いているため、白子町でも考えてほしい。

事務局：本町でも課題となるため、教育委員会等を通じて、情報共有させていただきたい。

委員：仕事で色々な家庭に訪問する際に、40歳～50歳代の子どもが結婚しないことについて心配する声を多く聞く。白子町では「婚活事業を行わないのか」という声を聞くこともある。結婚しない男性・女性が多く、親世代でも相談される。

事務局：町では、婚活については社会福祉協議会に委託して業務を行っているが、今は活発ではない。背景としては、今はコロナでイベントが行いづらく、人も集めづらい。また、婚活の事業は費用がかかる一方で、効果があまりない。

もう一点は、個人の意見や人権を尊重するという声もある。独身でいる人に「なぜそのようなことを言われるのか」という意見もあり、難しい問題にもなっている。

ただし、今の状況で言うと、今年のゴールデンウィーク後にコロナ禍前のような社会に戻すということで、次にどのような事業展開が出来るか考えたい。

結婚というのも大きいテーマとして把握しているため、今後の展開も考えていきたい。

会長：結婚相談員は今どのような状況になっているか。

事務局：結婚相談員の人もいるが、婚活事業と同じ理由で人を集めづらい。SNSを活用するアイデアもあり、専門の業者にも依頼したが、あまり成果が出なかった。

委員：個人的な活動としても、男女を知り合うきっかけを作ろうとしたが、難しかった。今は、仲人もいない。専門の業者を活用するのも難しいのではないか。

今は、女性の自立も進んでおり、このような仲介も煩わしく感じてしまう人も多いのではないか。

委員：女性の教育水準が上がったことで良い面もあるが、結婚に対しては意識が変わってきたのではないか。

委員：結婚して、子育てをするばかりが人生ではない世の中になっている。地域で見ても独身者が多く、将来的に空き家になることも懸念される。

委員：移住者が増えれば、子どもの数が増えることも考えられるのではないか。いすみ市では、移住者を訪問し、フォローしているという話も聞くが、白子町ではそのようなことをやっている様子も見られない。

委員：子育て世代に入ってもらってもいいことも考えていきたい。男女共同参画を推進する必要性も分かるが、ある程度の人口規模がないと計画が進まないのではないかな。

事務局：色々な政策課題がある中で後期基本計画を策定しているが、話に出た「空き家」については、マッチングが難しく登録もあまりされていない。

移住・定住に関しては、「子育て支援」が大切になってくるので、今年は予算を増やしている。ただし、その前に結婚の問題もあるので難しい問題になるが、取り組むべきことでもあるので、施策展開は行っていく方向で検討している。

## 7. その他

加藤企画政策係長より、本会議に係る事務手続きに関する説明が行われた。

## 8. 閉会

板倉会長より閉会の言葉。